

学問 勉強に 近道はない

論語の一説に「学びて時にこれを習う。またよろこばしからずや。」とあります。「習ったことを機会があるごとに復習し身につけていくことは、なんと喜ばしいことでしょうか。」という意味です。

私たちは、毎日、何かを学んで生活をしています。その中には理解できたこともあれば、大いに悩み苦しむようなこともあります。

学んだこと＝経験・体験 をもう一度、反復し熟慮して確かなものとしたときのうれしさは例えようのないものです。

学んで習うことは、地道なことで、忍耐力を必要とします。世の中の多くの人たちは、目立たず地道に、こつこつと頑張り、日々の生活を送っています。

事をなし、名を上げ、功をなした人たちの多くが、近道を求めず、その道を歩み続けた結果であることを、深く確認すべきです。

自分本位で、努力の足りない人ほど、結果の悪さを他人に転嫁し、無責任な主張を正当化しようとしています。孔子は、このような人を「小人」＝視野の狭い、魅力のない人 と言っています。

私は、君子＝視野の広い、心豊かな人 にはなりたいけれど、なりきれないと思うので、少なくとも普通の当たり前の人間でありたいと願っています。要領よくやろうとは思いますが、「楽」をして良い結果を得ようとは思いません。

結果までの途中が大変であればあるほど、最後の喜びと嬉しさは大きいと言えます。

忍耐強く、諦めず、一つ一つ積み重ねた「学習」が、自分の基礎・基本となることを認識しましょう。

